

安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品名	マルチフォトメーター用試薬 PPPChro250
品番	3-9792-20
会社名、部署名	アズワン株式会社品質保証部
住所	〒550-8527 大阪市西区江戸堀2-1-27
電話番号	06-6447-8614
FAX番号	06-6447-8664
推奨用途及び使用上の制限	マルチフォトメーターを用いた水質検査

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康有害性	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分1	H314
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分1	H318
	生殖毒性	区分 1B	H360
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1(中枢神経系、消化	H370
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性)	H335

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険		
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷		H314
重篤な眼の損傷		H318
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ		H360
臓器の障害		H370
呼吸器への刺激のおそれ		H335

注意書き

安全対策

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。	P202
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと	P260
取扱い後はよく手を洗うこと。	P264
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。	P270
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。	P271
適切な保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。	P280

応急措置

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。	P304+P340, P310
皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。	P303+P361+P353, P363
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。	P305+P351+P338, P310
飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に診断/手当てを受けること。	P301+P330+P331, P315
ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。	P308+P313

保管

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。	P403+P233
施錠して保管すること。	P405

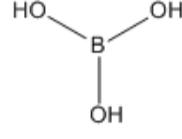
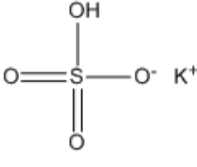
廃棄

内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。	P501
--	------

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名 別名	ホウ酸 オルトほう酸(Orthoboric acid) トリヒドロキシボラン (Trihydroxyborane)	硫酸水素カリウム 酸性硫酸カリウム (Sulfuric acid hydrogen potassium salt)
分子式(分子量)	BH3O3 (61.831)	HKO4S (136.162)
化学特性(示性式又は構造式)		
CAS番号:	10043-35-3	7646-93-7
官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	化審法/(1)-63 安衛法/既存(別表第9の544)	化審法/(1)-454 安衛法/1-(3)-89、1-(3)-226
濃度又は濃度範囲	10~30%	10~30%

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に診断/手当てを受けること。

5. 火災時の措置

消火剤

特有の危険有害性

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏洩物を拭き取り、密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

適切な保護具を着用し、試薬及び測定対象液が眼や皮膚に触れないよう注意する。

保管

子どもの手の届かない、乾冷暗所に保管すること。
商品パッケージのまま保管すること。
直射日光を避け、冷暗所に保管する。
酸性雰囲気中には保管しないこと。
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

未設定

	ホウ酸	硫酸水素カリウム
日本産衛学会	未設定	未設定(2009年度)
ACGIH	TLV-TWA 2mg/m3(インハラブル粒子), TLV-STEL 6mg/m3(インハラブル粒)	未設定(2009年度)

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

保護具

呼吸器の保護具
手の保護具
眼の保護具
皮膚及び身体の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。
適切な保護手袋を着用すること。
適切な眼の保護具を着用すること。
適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态 形状 粉末
色 白
臭い 無臭

混合物として融点、沸点、引火点、発火点、爆発限界下限、蒸気圧、密度、比重、溶解性、Pow、動粘性率等のデータなし。

10. 安定性及び反応性

安定性 保管上の注意に基づく保管においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性 データなし。
避けるべき条件 データなし。
混触危険物質 データなし。
危険有害な分解生成物 火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

11. 有害性情報

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

硫酸水素カリウムに関して、皮膚に熱傷を生じるとの記載(ICSC (2005))があり、pHが約1(20°C, 50 g/L) (GESTIS (Access on Sep. 2009))の強酸であり、かつ、EU分類においてC, R34に分類されている(EU-Annex I (Access on Sep. 2009))ことから、区分1とした。本試薬には30%以下の硫酸水素カリウムが含まれるため、区分1とした。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

硫酸水素カリウムに関して、眼に重度の熱傷を生じるとの記載(ICSC (2005))があり、pHが約1(20°C, 50 g/L) (GESTIS (Access on Sep. 2009))の強酸であり、かつ、皮膚腐食性物質であることから、区分1とした。本試薬には30%以下の硫酸水素カリウムが含まれるため、区分1とした。

生殖毒性

マウスを用いた連続交配試験では雄の生殖能に対する影響がみられ、精(胎)能力低下、不妊、出生児数減少、出生児体重減少がみられている。ラットを用いた3世代生殖毒性試験では精巣萎縮、排卵数減少、雌の生殖能に対する影響によると考えられる不妊がみられている(NITE初期リスク評価書(2008)、ACGIH (7th, 2005)、EHC (1998)、DFGOT vol. 5 (1993))。発生毒性については、ラットを用いた催奇形性試験において母動物に影響がみられない用量で胎児体重減少、第13肋骨短縮及び波状肋骨の増加がみられている(NITE初期リスク評価書(2008)、EHC 204 (1998)、ACGIH (7th, 2005)、DFGOT vol. 5 (1993)、NTP DB (Access on Aug. 2013))。また、母動物毒性のみられる用量でラットでは胎児死亡率増加、胎児体重減少、頭蓋顔面の奇形(主として無眼球、小眼球)、中枢神経系の奇形増加(主として脳室拡張、水頭症)(NTP DB (Access on Aug. 2013))、ウサギでは胎児死亡率増加、心血管系の奇形増加(主としてVSD)(NITE初期リスク評価書(2008)、ACGIH (7th, 2005)、EHC (1998)、NTP DB (Access on Aug. 2013))がみられている。したがって、区分1Bとした。本試薬には30%以下のホウ酸が含まれるため、区分1Bとした。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

ホウ酸に関して、ヒトについて、吐き気、嘔吐、腹痛、下痢、中枢神経系の抑制、痙攣、呼吸刺激の記述(ACGIH (7th, 2005)、DFGOT vol. 5 (1993))があり、また、実験動物については、わずかな気道刺激性がみられた(ECETOC TR 63 (1995))。以上より、分類は区分1(中枢神経系、消化管)、区分3(気道刺激性)とした。硫酸水素カリウムに関して、吸入による症状として咳および咽喉の痛みが記載され、かつ、EU分類ではR37に分類されている(EU-Annex I (Access on Sep. 2009))ことから、区分3(気道刺激性)とした。本試薬には30%以下のホウ酸と30%以下の硫酸水素カリウムが含まれるため、区分1(中枢神経系、消化管)、区分3(気道刺激性)とした。

12. 環境影響情報

混合物についてのデータはない。個別物質について記す。

ホウ酸 水生環境急性有害性

魚類(ニジマス)の96時間LC50=78.1mg boron/L(ホウ酸濃度換算値:447mg/L)(EHC204, 1998)から、区分外とした。

水生環境慢性有害性

難水溶性でなく(水溶解度=50000mg/L(PHYSROP Database, 2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。

オゾン層への有害性

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

硫酸水素カリウム 水生環境急性有害性 水生環境慢性有害性 オゾン層への有害性

データなし
データなし
データなし

13. 廃棄上の注意

内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国際規制 国連番号 2509
国連危険有害性クラス 8
容器等級 II
国内規制 海上規制情報 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報 航空法の規定に従う。
陸上規制情報 毒劇法及び消防法の規定に従う。

15. 適用法令

労働安全衛生法

ホウ酸:
名称等を表示すべき危険有害物(法第57条、施行令第18条別表第9)
名称等を通知すべき危険有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)
リスクアセスメントを実施すべき危険有害物(法第57条の3)

毒物及び劇物取締法 PRTR法

該当しない
ホウ酸:第一種指定化学物質

16. その他の情報

参考文献 各データ毎に記載した。

注) この情報は、必ずしも充分ではないので、取扱いには注意をお願いします。
本データシートは情報を提供するもので記載内容を保証するものではありません。